

スーパーチーム

2学期終業によせて

2022・12・19 校長 重枝一郎

明日はいよいよ2学期終業礼拝です。どんな2学期をみなさんは過ごすことができましたか？この話は、先月の「Sence of Mission」で書いたのですが、みなさんに直接話したいと思いました。

私は、2学期はさまざまなみんなで取り組む活動があり、集団が活性化したのではないかと考えています。その集団の活性化の中で、個人の力量アップの相乗効果も生まれているのではないかと思います。もしかしたらその成長実感を本人は気づいていないかもしれませんが、間違いなく生まれています。

私は昔から、その法則のようなことを言葉にして「**集団が個を育て、個の成長で集団が育つ**」とよく生徒に話していました。ついでに集団主義と集団教育の違いについても併せて話していました。「**集団主義とは違いよりも同じ面を強調して、個々のメンバーの基準に合わせるだけ。集団教育とは個を育成するために集団体験を活用すること**」だと。

また、似たような話で同調と協調の違いについても話していた。「**同調とは自分を殺して他人と合わせる。協調とは違いを認め合い、個人が独立している中で、お互い折り合いをつける**」ことだと。

さて、バスケットボール漫画の「スラムダンク」を知っていますか。作者の井上雄彦氏が「魅力的な登場人物を生み出す秘訣は？」というインタビューを受けた際、井上氏は「魅力的なキャラクターをつくるコツは、**それぞれに必ず弱点をもたせること**」と答えたそうです。また、「完全無欠のスーパーマンが登場してしまうとリアル感が失われる」とも。そして、井上氏は「**さまざまな個性のキャラクターが交わるからドラマに深みが出る**」と言ったそうです。

みなさんのクラスや部にもいろんな人がいて、おもしろいドラマが毎日できていると思います。先日の表彰においても、様々な分野でみなさんの仲間が表彰されていました。だからこそチームをつくる価値があるといえます。お互いの弱点を補い合うことでスーパーチームに近づいていくことはできます。そして実はスーパーチームは、楽しいからみなさんにすすめたいのです。

例えば、プレゼンで話すのは得意だが資料の整理は苦手とか、体力はあるが文書のケアレスミスが多いとか、知識は豊富だが感情的になってすぐに人と衝突するとか、それらの逆とか、きりがなくらい人には一長一短があります。それをわかればチームづくりはやれます。わかり合って組み合わせさせてチームとして個性が生まれます。そうなると一定レベル以上の成果や楽しさは必ず味わえることを保証します。つまりメンバーが有機的に結びついているということなのです。同質な人間が複数集まって

チームを結成してもこうはなりません。フォローする部分が少ないと、生きた組織体になりにくいのです。

でも個々人の長所、短所がパズルのように都合よく組み合う保障はありません。

私が以前指導していたサッカーチームはまさにはっきりと弱点をもっている者の集まりでした。そのメンバーを組み合わせると徐々にパズルのようにはまっていく感じがありました。そして、苦手を得意に変える選手も出てきました。すると「やりたくない」とか「できない」を言い続ける選手はいなくなりました。それは、きちんと自分の弱みをさらけ出して、お互いそれをフォローし合う中で変わっていったと思います。要は、そういう気持ちや考えを不安なく言える居場所であったことが、一人一人の成長力を高めていったのだと思います。そのチームは市内70校中2位になり、たった11人で県大会までいきました。

実は、みなさんのキャリアで大切になる、自分の考えをもったり、伝えたりする力は、「3つの要因」が必要と言われます。自分の考えをもつ練習をする「認知的要因」。自分の考えをつくる機会を与える「習慣的要因」。そして一番難しいのは、自分の考えをもつことが不安でないという「感情的要因」です。

練習や場づくりは、先生や監督が、簡単に設定することができます。しかし、「感情的要因」をつくることは、みなさん一人一人にしっかり相手を大切に作るマインドが育っていないとうまくいきません。一人一人のハートが大切になります。これからもみんなでスーパーチームに近づけるようがんばっていきましょう。

最後に、3学期はスーパーチームになるための「集大成」です。そして次の学年への助走にもなります。